

## 佐世保市地域福祉計画推進委員会 第1回専門部会 実施結果

### 【つながり、支え合う地域づくり部会】

地域の中でのつながりというものが希薄化してきており、隣近所の人たちが何をしているのか、何に困っているのかを知ることができない現状がある。また、婦人会や青少年部会などの地域のコミュニティも、担い手不足やコロナ禍での活動停滞を受けて、取りやめることが多くなっており、総じて、「支え合いの地域づくり」というものが維持できない状態に近づいている。

また、外国人や複合的な福祉課題を抱える世帯は孤立しがちで、外国人は独自のコミュニティを形成したりしているものの、コミュニティ自体が地域から孤立してしまい、そちらは独自で活動してしまっている。

今後、こういった課題を解決していくためには、まず多様な人が地域の人と交流をできる場所をつくる、あるいは交流できる機会として参加しやすいイベントを開き、地域の中での人のつながりや動きを生み出すことが重要となる。特に子どもや学生などの協力を得つつ、こういった活動ができるとより広い対象にアプローチが可能となる。また、単独の地区や小地域だけでは活動ができずとも、いくつかの地区や小地域が協力することで、そういった取り組みの開催側のマンパワーを生み出しつつ、より広い対象への発信も可能となるのではないかと考えられる。

こういった取り組みを進めるにあたり、移動の問題などは付きまとうため、その部分は「市民活動を支える基盤づくり」として改善が必要。

### 【市民活動を支える基盤づくり部会】

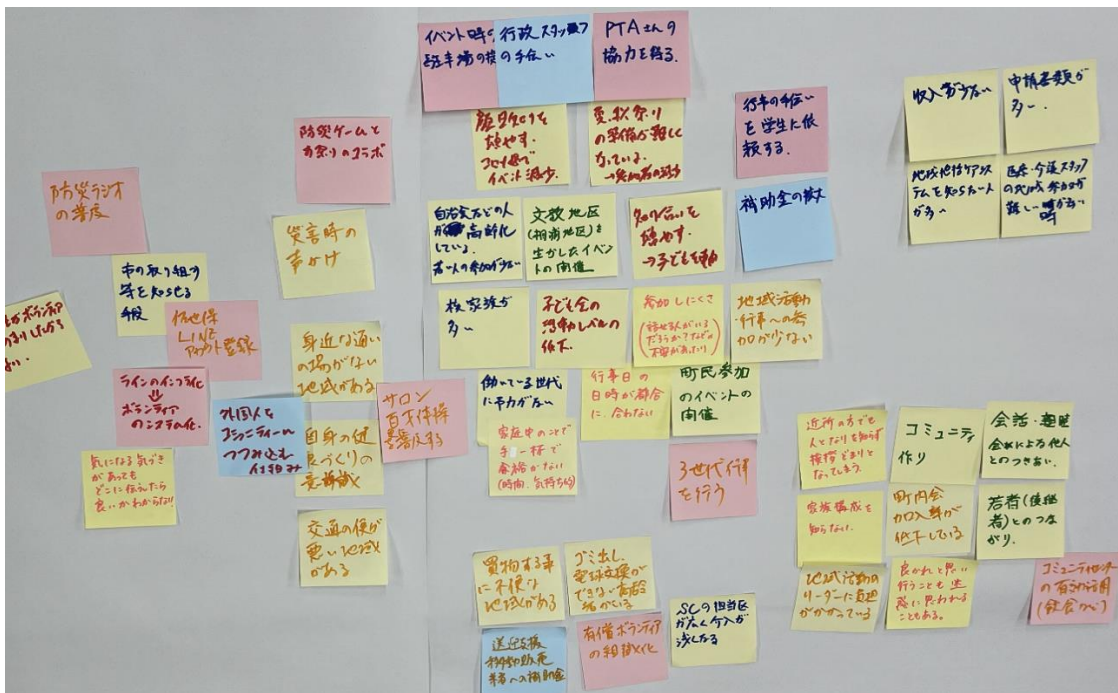
相談体制はしっかりしているものの、有効活用ができておらず、どうしても横のつながりに乏しい側面がある。また、有効活用ができない一因にもなるが、行政の情報発信が、市民にしっかり届いていない部分もあり、こういった体制は市役所全体的な課題として捉えていかなければならない。

福祉分野では複合的な課題が表面化しており、こういった課題を抱える世帯が埋もれないよう対応策を講じていかなければならない。また、子育て世帯が複合的な課題（例：ひとり親世帯、ヤングケアラー、子ども貧困など）を抱えやすい背景もあり、こういった世帯に対しての支援も充実を図りつつ、支援が届いていない世帯をすくいあげる体制づくりが必要となる。

また、移動や買い物支援は地区によっては深刻な問題となっている。一方で、バスなどは運行しても採算が取れない為、廃線となっている実情もあるため、今後は福祉の観点で移動や買い物の支援の体制づくりは進めていく必要がある。

いずれの課題についても、役所としては、「市役所内外問わずに連携の体制づくり」「幅広い世代にきっちりと届けることができる情報発信」に取り組む必要があるが、それを受けて地域においても積極的に活動を進めていく実行力を持たせる必要がある。既存の自治会、民生委員・児童委員・福祉関係の活動者などだけでなく、大学生や有償ボランティアなど新たな人材なども取り入れながら連携を深めて、推進体制を作る必要がある。

## 【つながり、支え合う地域づくり部会】



### 課題

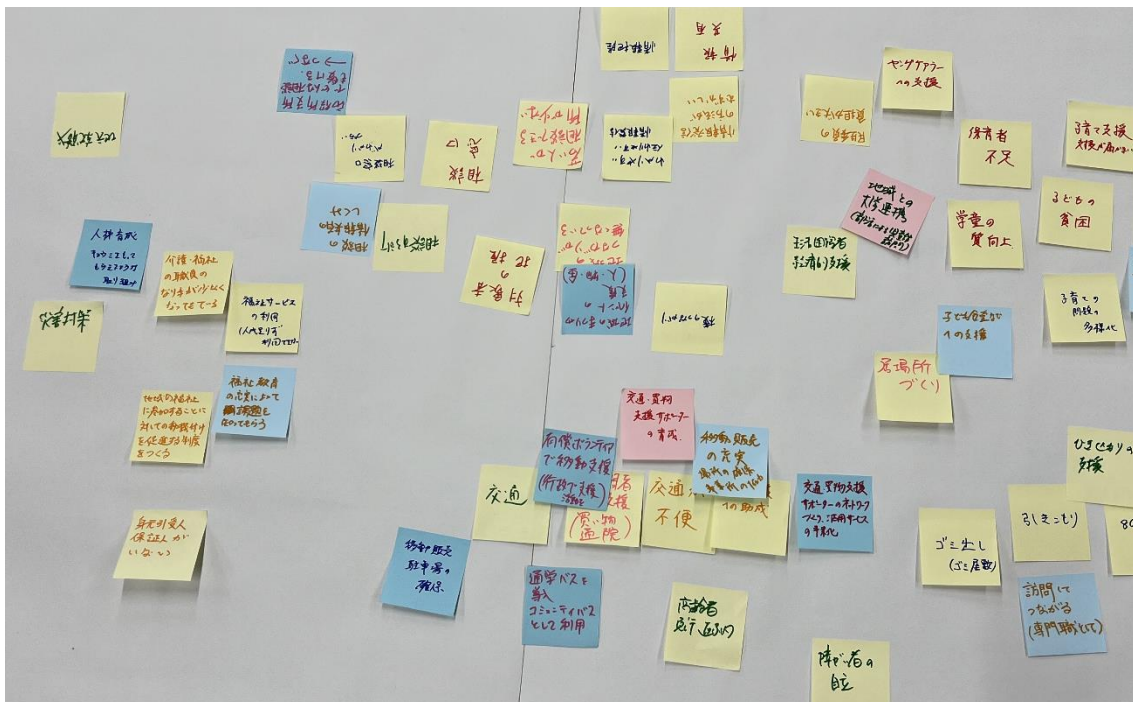
- 交通の便と買い物、移動は常に課題となっている。バスの便数が減っている。乗り合いタクシー等必要と声があるが実施に至っていない。またすべての地域には回れない。
- 住民同士のつながりが希薄。近所も知らない。
- 隣近所の家族構成を知らないから介入することは難しい状況。こちらもかかわってほしくないところもある。付き合う度合いが難しいと感じる。
- イベントがあっても駐車場がない。
- 身近な通いの場（集い）がない。
- 婦人会がほとんどの町内からなくなっている。青少年部会やいろいろな組織がなくなってきている。後継者がいない。3世帯イベント自体が中止になりつつある。
- 留学生から結婚し地元のコミュニティとの繋がりが薄い。特に中国からの人が多い  
地域に馴染めず、中国人同士のチャット内でつながっているだけ。
- 外国人労働者が働きにくさがある
- 物価の高騰、最低賃金低く生活は苦しい。イベントがあってもいけない

### 取り組み

- イベントの際のバスの増便。
- 会話親睦による他人との付き合いのできる場。
- 若い方にも情報が届くようにネットを活用した発信。
- コミュニティセンターで飲食が可能になると集う人が増えるのでは（居場所）集いやすくなる。
- 地区によっては小学生・中学生の参加が活発で活性化している。
- 学生の助けや関わりを増やす（子どもへの助け、保育所等には興味大きい）。
- 有償ボランティアが重要になる。地域の方々と協力しながら組織化はできないか。

- 3世代が集えるようなイベントの開催。横断的な視点をもってイベントを開催。
- イベントの開催について（行政の補助があれば開催しやすくなる）
- 町内合同のイベントの開催や他の町や他の組織との合同でのイベントの開催
- 電球交換やゴミ出しとしたちょっとした困りごとについては、ボランティアや近所や地域のか  
でやっているところもある。もっと広がればいいと思う。
- 町内会長同士の関わり（意思疎通・コミュニケーション）、町民同士の関わりを作るため交流の  
中からイベントを通したつながり
- 子どもを中心としたイベントを開催をすることでつながり、参加が増える。
- 隣近所がわかるようなイベントの開催はどうか。つながりができないか。（工夫）
- 第2層コーディネーターを増やしたほうがいい。支援者一人の負担が大きい、手厚い支援がで  
きない、支援同士のつながりがあればなおいい。
- 高齢者の見守り隊。 保険の約款（申請書類）一般市民でも手助けしやすい書類であれば  
手伝える。
- 病院や施設で働く医療、介護等の専門職が地域に関われる環境づくり。
- 市民大清掃への参加について、不参加の人は参加できない人ばかりではなく都合が悪く参加し  
ていない人もいる。6月の第1週目の時間までは決めずに、できる人は夕方から等従来のルール  
を見直すことも検討してはどうか。

## 【市民活動を支える基盤づくり部会】



### 課題

- 相談窓口のわかりにくさや相談窓口同士の連携がとれていない。既存の窓口が多くあるが有効に活用できていない。
- 移動・交通、買い物支援の充実
- バスの便数が減った。福祉パス、高齢パスがあるが便数が減り不便に。
- バスの運転手がいらない＝便数減。
- 移動販売するにしても駐車場がない。
- 複合的な課題を抱えた（ひきこもり、ごみ屋敷、ヤングケアラー、8050、ダブルケア）  
単一な福祉分野ではとらえきれない部分が大きくなってきている。
- 情報は発信しているが受けての意識が伴っていない。受け手に対するアプローチ
- 子育て支援が届いていない人たちがいる。どう支援を届けるか。
- 防災。
- 医療の同意、身元引受人、保証人の問題。
- 市営や県営住宅。
- 地域のつながりが希薄。子育てにも負担を感じる。
- 学生も余力がない（学業も大変になっている）。
- 核家族が多く世代間での問題を知らない。
- ひとり親の支援が必要。色々施策はあるがそこからもれている人がいる。
- つながることができない世帯への支援が不足（アウトリーチ型の支援）。
- 支援者に負担が偏ってしまっている。

## 取り組み

- 相談窓口の周知に力をいれる。
- 相談窓口同士で情報共有・連携をする仕組みづくり（一つの様式で共有できる仕組み）。
- 移動販売の（デイサービス等の事業所で）仕組みづくり、公民館市営住宅等の一角を活用した移動販売。
- 有償ボランティアの活用。
- 買い物支援の活用。
- バスは採算がとれていない。福祉の観点で見れば山奥へのバスも必要だがビジネスの観点で見ると採算がとれないルートは難しい。福祉のサービスで細やかにやっていく必要がある。
- 防災関係に対し地域と大学との連携。大学でやっている取り組みを地域にも知ってもらい、一緒に防災について考える。
- ウーバーイーツの活用（食品以外の買い物等含む）。
- ふくし教育の推進（車いすの体験、避難活動の際に視覚障害のマスクを着けて実施）。
- 子どもの体調不良の際の支援の充実。（病児保育、ファミサポ等利用しやすい支援）
- 保育所、学童保育が行政とつながり課題を抱えた世帯の早期の把握できる仕組みの強化。
- eスポーツを活用したイベントの開催（多世代参加型）。
- 学生の趣味やサークル活動を子育て支援に活用する。
- ほしい情報が受け取りやすいシステムづくり（佐世保市のホームページわかりにくい）。